

# スポーツ推進アクションガイドー概要ー

## 趣旨

- 生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことのできる社会の実現に向けて、国民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことのできる環境を整備し、スポーツへの参画（する・みる・ささえる）を促進する必要がある。
- スポーツ未実施者への働きかけやスポーツの継続的実施のための方策について整理することが必要である。
- そこで、「楽しさ」「喜び」などを実感するためのスポーツへの多様な関わり方を分かりやすく提示するとともに、スポーツ参画への阻害要因に対するアプローチ方策について、具体的なアクションや実践例を交えて広く発信することを目的とし、ひいては、本ガイドラインを関係者等が活用することにより、自主的、かつ、積極的にスポーツに参画する者を増やしていくことを目指す。

## ◆ 第1章 スポーツ施策の方向性～第2期スポーツ基本計画を踏まえて～

- スポーツへの関わり方としては、スポーツを「する」ことだけでなく「みる」「ささえる」ことも含まれる。
- スポーツが果たしている役割やスポーツへの多様な関わり方等をしっかりと認識した上で、その重要性を広く国民にわかりやすく伝えていくことが不可欠。

## ◆ 第2章 本アクションガイドが目指しているもの

### 1. 本アクションガイドの必要性

- 国民がスポーツの価値を存分に享受し、豊かなスポーツライフを営むためには、スポーツへの参画（する・みる・ささえる）を一体的に支援・促進していくことが必要であり、国民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことのできる環境を整備することが重要な課題。
- 国民が自発的・自主的にスポーツに親しみ、スポーツの価値を享受する環境を整備する上では、特にスポーツに親しむ機会を企画・提供する側の者の工夫を引き出し、取組の幅を広げていくことが重要であるが、そのための具体的なアクションや実践例が十分に示されていない。

### 2. 本アクションガイドの目的・方向性

- 第2期スポーツ基本計画の具体化に向け、スポーツ参画者の立場に立って、それぞれの関係者等の役割を分かりやすく解説することが求められている。
- 「楽しさ」「喜び」などを実感するためのスポーツへの多様な関わり方を分かりやすく提示するとともに、スポーツ参画への阻害要因に対するアプローチ策について、具体的なアクションや実践例を交えて広く発信することを目的とし、ひいては、本ガイドラインを関係者等が活用することにより、自主的、かつ、積極的にスポーツに参画する者を増やしていくことを目指す。

### 3. 本アクションガイドの利用者

- スポーツの魅力や意義をより広く発信していく観点から、主として、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会を企画・提供する関係者等に活用されることを期待する。

## ◆ 第3章 スポーツへの参画を促すための3つの方向性

- スポーツ参画促進の取組を一体的に推進するため、「する」「みる」「ささえる」のそれぞれの観点における関係者等における求められる方向性や具体的な実践例をまとめる。
- 「する」スポーツの推進に当たっては、世代ごとにスポーツに参加できない阻害要因や課題等が分析されていることを踏まえ、関係者等に期待される世代別のアプローチ方策について紹介。
- 「みる」「ささえる」スポーツについては、スポーツ関係者等が既に行っている様々な取組の見える化を図る。

### I 「する」スポーツの参加促進

- (1)子供世代のスポーツ参加促進に向けた方策
- (2)ビジネスパーソン・子育て世代のスポーツ参加促進に向けた方策
- (3)高齢者世代のスポーツ参加促進に向けた方策
- (4)多世代にまたがるスポーツ参加促進に向けた方策
- (5)障害者のスポーツ参加促進に向けた方策
- (6)共通して取り組むべき方策

### II 「みる」スポーツの参加促進

- 「みる」スポーツの参加促進

### III 「ささえる」スポーツの参加促進

- 「ささえる」スポーツの参加促進

### IV 取組効果を高めるためのポイント

- 具体的な実践例から見てきた「する」「みる」「ささえる」スポーツ人口拡大に向けた取組の効果を高めるための共通する取組ポイントを「スポーツ参加促進」と「担い手の持続性」の二つの観点から整理。

それぞれの  
実践例を  
提示

## ◆ 第4章 今後の課題

- 本アクションガイドは、必要に応じて見直し、更新を図る。

# 具体的な実践例（抜粋）（1/2）

- 特徴的な事例のポイントは以下のとおり。
  - “年齢や競技レベルにかかわらず誰もが”、“行きたいと思ったときに気軽に（事前準備なしでも）”、参加できること。
  - その上で、各自の置かれた状況や趣味嗜好に合うスポーツ実施機会を選べるような、多様な選択肢を持てること。
  - それらの選択肢との接点へのアクセスが容易であること。

誰もが気軽に

多様な選択肢

容易なアクセス

## 取組の狙いとターゲット

## 取組の概要

## 取組の主な効果

県立高校の施設を活用した「星空スポーツ広場」(NPO法人浦和スポーツクラブ)

### 0 老若男女を問わず地域住民全員を対象

- 団体スポーツは仲間がいないと場所の確保が難しい。特に浦和は他地域から転入してきた人も多いため、参加はハードルが高い状況。
- 経験が少ない人やブランクがあるような人が、行きたいと思ったときに気軽に参加することができる場の提供を企図して取組を実施。

誰もが気軽に 容易なアクセス

### 競技レベルに関係なく誰もが気軽に参加できる場を提供

- 毎週土曜夜に県立浦和高校のグラウンドと体育館を浦和スポーツクラブが借り、会員に限定せず、広く地域住民に開放し、サッカー、バドミントン、卓球等を楽しめる星空スポーツ広場を開催。
- 幅広い年齢の参加者が一緒にスポーツを楽しむことで、競技レベルに関係なく誰もが気軽に参加できる場を提供。

### スポーツ参画人口拡大効果

- 1回当たりの参加者は、サッカーが20～50人、バドミントンは30～60人、卓球は20～30人。
- 中高生から50代まで多世代が参加。

### 子供の継続的なスポーツ実施

- 部活動で十分な練習時間を確保できず、競技をやめてしまうような子供に、スポーツを楽しむ機会を提供し、継続にも寄与。

ふらっと健康運動体験教室(東京都日野市、イオンモール株式会社)

### 0 多忙でスポーツ実施率も低い子育て世代の女性をターゲット

- 市民のスポーツ実施率向上に向け、仕事や家事・子育てが忙しくスポーツをする機会の少ない若年層の女性(子育てママなど)に対するアプローチの必要性を強く認識。
- 高齢者中心の健康教室に若年層は参加しづらいため、若年層に特化した事業を立上げ。

誰もが気軽に 容易なアクセス

### 買物ついでに予約なしで“ふらっと”立ち寄れる機会を提供

- 日野市がイオンモールと連携して、商業施設内で取り組める健康運動体験教室を開催。
- 予約しなくても買物中に気軽に立ち寄れるようにする、母親が家を空けやすい平日午前中の開催とする、軽装でも参加できるプログラムとするなど、忙しい子育て世代の女性が参加しやすいよう工夫。

### スポーツ参画人口拡大効果

- 延べ1,490人(実人数374人)が参加。定員70名に対し平均参加率は90～100%。(H27)
- リピーターが新規を誘い活動の輪が拡大。

### 地域商業の活性化効果

- 実施場所であるイオンモールにとっても、来店のかっかけの一つとなるなど、地域商業の活性化にも寄与。

# 具体的な実践例（抜粋）（2/2）

取組の狙いとターゲット	取組の概要	取組の主な効果
<p>スマートウェルネスみつけ (新潟県見附市)</p> <p>多様な選択肢 容易なアクセス</p>	<p> <b>歩いて暮らせるまちづくりとともに住民のスポーツへの接点を拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• まちなかに、市民のたまり場や快適な歩行空間を整備するなど、外出を促す仕掛けづくりを実施。</li> <li>• 同時に、健幸ポイント制度や、地域で健康情報の拡散を担う「健幸アンバサダー」養成、適切な健康プログラムを案内する「健幸コンシェルジュ」を配置した「健幸スポーツの駅」(市内5か所)の設置など、行動変容を促すような取組を推進。</li> </ul>	<p> <b>スポーツ参画人口拡大効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツ実施率が43.2%(H19)、47.9%(H24)、49.2%(H28)と全体的に改善傾向。</li> </ul> <p> <b>高齢者の運動量増加と健康増進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高齢者のうち1日1回以上外出する者の割合が、50.8%(H19)から61%(H24)に改善。</li> <li>• 体力年齢の若返りと医療費抑制効果が実証(一人当たり年間約10万円の抑制効果)。</li> </ul>
<p>ゆるスポーツ (一般社団法人世界ゆるスポーツ協会)</p> <p>誰もが気軽に 多様な選択肢</p>	<p> <b>スポーツが苦手な人、スポーツ弱者がコアターゲット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツが苦手な人たちのための新たなスポーツづくりを目的に、世界ゆるスポーツ協会を立上げ。「老若男女健障、誰もが参加できる」、「ビジュアルとスポーツの名称がキャッチー」、「勝ったら嬉しい、負けても楽しい」、「プレイヤーも観客も笑える」、「社会課題を解決している」がポイント。</li> </ul> <p> <b>多様な選択肢を提供し、自分にあったスポーツに出会える機会を拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「スポーツ弱者を、世界からなくす」というコンセプトのもと、協会に属するスポーツクリエイターがプロジェクトごとに連携し、開発すること自体を楽しみながら、自由に新たなスポーツを開発。</li> <li>• 「する」スポーツに多様な選択肢を提供し続けることで、どんな人でも自分が楽しめて活躍できる種目を探すことができるようになる。</li> </ul>	<p> <b>スポーツ参画人口拡大効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでに50種目のゆるスポーツを開発。</li> <li>• ゆるスポーツの各種イベントに参加する競技人口は、30,000人以上に到達。</li> </ul> <p> <b>多様な層の関心を喚起</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ゆるスポーツ協会主催の運動会参加者は、年齢構成、運動経験とも非常に多様で、運動実施が年に1回程度以下の者が約半数。</li> </ul>
<p>十日町市スポーツコミッション (新潟県十日町市など)</p> <p>誰もが気軽に 容易なアクセス</p>	<p> <b>スポーツ合宿・大会誘致を活用したまちづくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2002FIFAワールドカップ開催に当たり、大会後の交流継続や地域活性化等のレガシー形成を視野に、代表合宿の誘致活動を実施し、クロアチア代表の誘致に成功。</li> <li>• ボランティア参加による市民の盛り上がりをまちづくりに生かすため、スポーツコミッションを設置し、スポーツキャンプの拠点形成を推進。</li> </ul> <p> <b>スポーツチームとの交流により、住民のスポーツへの関心を喚起</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• クロアチアを始め、誘致したチームには合宿地としての継続的な利用を促すとともに、地域住民向けの教室開催など住民がスポーツに触れる機会づくりにも協力してもらっている。</li> <li>• 同時に、総合型地域スポーツクラブにより、まちなかウォーキングなど住民が気軽に運動できる機会の提供なども推進。</li> </ul>	<p> <b>スポーツ参画人口拡大効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツ大会などのイベント時には自発的に多数のボランティアが参集。クロアチア代表の合宿時には10日間で延べ約1,500人が参加。</li> </ul> <p> <b>大会・イベントの誘致</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロ、実業団、大学、高校など様々な団体(年間約100団体、約10,000名)が合宿利用。</li> <li>• 地域の宿泊事業者等の活性化にも寄与。</li> </ul>